令和６年度　日本大学自主創造プロジェクト

# 日大生のやってみたいを実現するプロジェクト成果報告書

２０２４０２５

プロジェクト名　「ロハスの畑プロジェクト」

## プロジェクトの概要

安全安心な農業の推進を通じた自然環境の保全や，収穫に向けて地域の人々の協力を仰ぎながら，社会をより良くするために、実装すべきものについて考える体験型プロジェクト。
工学部では，健康で持続可能な生活と社会を実現する「ロハス工学」をテーマに今回、液肥は野菜づくりに使用する研究プロジェクトとコラボし，農薬や化学肥料に頼らない環境にやさしい循環型農業の実証実験として，さつまいもの栽培を行う「ロハスの畑プロジェクト」を実施する。

## プロジェクトの結果・成果

２年目となる「ロハスの畑プロジェクト」は、令和６年５月末に工学部キャンパス内の一角を使用し、さつまいもの栽培を開始した。JA 福島さくら様の指導のもと、土壌づくりから行い、畝づくりの際には土壌改良剤として液肥や作物の成長を早める効果のある乳酸菌やバクテリアを多く含む竹パウダーを使用し、さつまいもの生育状態の違いを比較・検証した。収穫までの間は、水やりや草取りなど学生が率先して畑の管理を行った。約 800 株の紅はるかを定植し、結果的には計 160 ㎏のさつまいもを収穫することができた。苗植えの時期が少し遅かったことから、小ぶりのさつまいもが多くみられたが、収穫したさつまいもを比較すると、竹パウダーを使用した畝のさつまいもは他の畝よりも細長く育っていた。また、液肥のみと無肥料を比較すると、無肥料のさつまいもの方が、育ちが良いように感じた。学園祭では、近隣の保育園や小学校・中学校に声をかけ、地域の方を対象とした収穫体験を行い、地域交流を図った。２日間開催したが両日ともに多くの参加者が集まった。最終的には、収穫したさつまいもを規格別で振り分け、JA 福島さくら様の協力のもと、さつまいもの販売を行った。昨年度はさつまいもの品質が不十分であったことから販売を行うことができなかったが、今年度は販売まで行うことができた。焼き芋にしたものとさつまいもの詰め合わせを販売し、23,500 円を売り上げた。売上金は社会福祉法人 郡山市社会福祉協議会へ寄付をした。知識のない状態から始まったプロジェクトであったが、多くの協力により今年度も無事プロジェクトを終了できた。作物を育てることの難しさを肌で実感できただけではなく、収穫や販売を通し学生や教職員の垣根を越えて地域の方々とのコミュニケーションも図ることができ、地域貢献できたと感じる。

## 活動写真





